

「あっちからも こっちからも」

今見えているものは、今いるその場所から見えている範囲のものだから  
つまりは全体の一部分かもしれない。

ということは、自分がいる場所を変えれば、その外側も見えるかもしれない。  
窓から見えたものを、玄関の外にでてみたり、二階のベランダから眺めてみたり。  
広い範囲が見えてくれば理解できることも  
一部分しか見えていないために  
他者を非難してしまったり  
勝手に優越感を抱いてしまうことがあるかもしれない。

「今見えているものだけで評価しない」ことが求められる。

「視点を変える」ということは、子どもたちへの支援においても重要なキーワードである。

「人が嫌がることをしちゃダメでしょ」

「相手の気持ちを考えて」

こういった場面はよくある。

しかし視点を変えることができなければ、相手の気持ちを察するのは難しい。

自分自身を反対側にいる相手側に立たせて、

さらにそこから、こちら側(自分)をみて、

そのときどう思うかを考える。

この工程をすつとばして

「相手の気持ちをかんがえて」

と一生懸命うったえると、

その子は自分ばかりが責められていると思うかもしれない。

友だちのおもちゃを取ったことに対して

「こうしたかった」「これがほしかった」を受け止める。

その気持ち自体が悪いのではない。

ここで第一段階。

次に、自分が急におもちゃをとられたら？

その場面を想定して「どんな気持ち」か一緒に考えてみる。

これが第二段階。

おもちゃをとられたら「いやだ」と感じたら

第三段階。

「それが今の友だちの気持ち」

ここに結び付けるのが第四段階。

これを繰り返すことで、

自ら視点を変えることができるようになるかもしれない。

自転車の練習をするように、この工程を練習することが大切であり、  
ご家族や支援者は、できるようになるまでじっくり付き合う。

何かを理解するのが難しいときには、

それを小さな単位に分けてから

線をつないでいくとよい。

子どもも、大人も。

